

表2 学習・教育到達目標と評価方法および評価基準(全体)

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する基 準1の(a)-(i) の項目	関連する基 準1の(a)-(i) の対応	評価方法および評価基準
(A) 社会の変化を正しく理解するための教養と判断力、理性を備えていること。	(A-1) 歴史や文化、経済、価値観などに関する知識に基づき、自分自身の文化や価値観、利益だけではなく、地球規模で他者の立場から物事を考えることができること。	(a)	◎	人文科学系列の2科目と社会科学系列の2科目を含む合計6科目の評価をすべて満たすことで、歴史や文化、経済、価値観などに関する知識を習得し、それに基づいて地球規模で他者の立場から物事を考えることができることを確認する。
(A) 社会の変化を正しく理解するための教養と判断力、理性を備えていること。	(A-2) 情報技術が自然および社会に及ぼす影響や効果を理解し、情報処理技術者が社会に負っている責任を自覚すること。	(b)	◎	「情報職業論」と「情報化社会論」2科目の評価を満たすことで、情報処理技術者が社会に負っている責任を自覚していることを確認する。
(A) 社会の変化を正しく理解するための教養と判断力、理性を備えていること。	(A-3) 文献や種々の情報媒体を利用して情報を集め、自主的、継続的に学習できる能力。	(e) (g)	○ ◎	「電子情報工学特論」(50%)、「電子情報工学特別演習」(25%)、「卒業論文」(25%)3科目において、この目標に該当する評価をすべて満たすことで、情報収集能力、自主的・継続的学習能力を確認する。
(B) 情報通信技術の基礎を理解すること。	(B-1) 数学と物理学を中心とする自然科学についての基礎知識を持ち、実際の問題に応用する能力。	(c)	◎	「微分積分Ⅰ」、「微分積分Ⅱ」、「行列と行列式Ⅰ」、「行列と行列式Ⅱ」、「情報数学」、「力学A」、「力学B」、「物理学実験」、「電気磁気学Ⅰ」の9科目の評価をすべて満たすことで、数学と物理学の基礎知識を習得しそれを応用する能力を身に着けたことを確認する。
(B) 情報通信技術の基礎を理解すること。	(B-2) 電子工学、通信工学、情報工学の基礎を幅広く理解すること。	(c) (d-1)	○ ◎	「電気回路基礎Ⅰ」、「電気回路基礎Ⅱ」、「電子情報基礎演習」(60%)、「電子回路素子」、「電子回路基礎」、「デジタル電子回路」、「論理回路」、「電子情報工学実験A」、「電子情報工学実験B」、「プログラミングⅠ」、「プログラミングⅡ」、「プログラミング演習Ⅰ」、「プログラミング演習Ⅱ」、「情報処理概論」、「情報理論」、「数値計算法」、「オペレーティングシステムⅠ」、「計算機ネットワーク」、「マイクロコンピュータⅠ」の19科目の評価をすべて満たすことで、電子工学と情報工学の基礎を理解していることを確認する。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する基 準1の(a)-(i) の項目	関連する基 準1の(a)-(i) の対応	評価方法および評価基準
(C)ソフトウェアおよびハードウェアを含む情報システムを構築できること	(C-1) コンピュータシステムとシステムプログラムの原理や構造を理解し、その設計や実現を効果的に行う能力。	(d-1)	◎	「計算機工学Ⅰ」、「計算機工学Ⅱ」、「情報工学実験A」、「データ構造とアルゴリズムⅠ」、「データ構造とアルゴリズムⅡ」、「オートマトンと言語理論」、「コンパイラ構成法」、「データベースシステム」、「オペレーティングシステムⅡ」、「オブジェクト指向プログラミング」の10科目の評価をすべて満たすことで、コンピュータシステムとシステムプログラムの原理や構造を理解し、その設計や実現を効果的に行う能力を習得したことを確認する。
(C)ソフトウェアおよびハードウェアを含む情報システムを構築できること	(C-2) 画像処理、音声処理、自然言語処理、知識工学などコンピュータ応用システムの基礎を理解すること。	(d-2)	◎	「知識工学」、「ソフトコンピューティング」、「画像処理工学」、「自然言語処理工学」、「音声情報処理工学」、「マルチメディア概論」から最低3科目の評価をすべて満たすことで、コンピュータ応用システムの基礎を理解していることを確認する。
(C)ソフトウェアおよびハードウェアを含む情報システムを構築できること	(C-3) 社会の要求を解決する情報システムをデザインする能力。	(d-2) (e) (i)	◎ ◎ ○	「ソフトウェアシステム設計」、「情報工学実験B」、「情報処理システム開発」(50%)、「卒業論文」(25%)の4科目において、この目標に該当する評価をすべて満たすことで、社会の要求を解決する情報システムをデザインする能力を習得していることを確認する。
(C)ソフトウェアおよびハードウェアを含む情報システムを構築できること	(C-4) 論理的な文章の記述や口頭発表により情報システムを説明する能力。	(f)	◎	「電子情報工学特論」(50%)、「電子情報工学特別演習」(50%)、「卒業論文」(25%)、「フレッシュマン・イングリッシュⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」、「インターミディエイト・イングリッシュⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」、「第2外国語ⅠA、ⅠB」の13科目において、この目標に該当する評価をすべて満たすことで、論理的な文章の記述や口頭発表により情報システムを説明する能力を習得していることを確認する。
(C)ソフトウェアおよびハードウェアを含む情報システムを構築できること	(C-5) 与えられた制約の下、情報システムを構築するために計画的に仕事を進め、まとめる能力。	(e) (h) (i)	◎ ◎ ○	「電子情報工学特別演習」(25%)と「卒業論文」(20%)において、この目標に該当する評価をすべて満たすことで、与えられた制約の下、情報システムを構築するために計画的に仕事を進め、まとめる能力を習得していることを確認する。
(C)ソフトウェアおよびハードウェアを含む情報システムを構築できること	(C-6) チームで相互評価と相互支援を行い、計画的に目標を達成する能力。	(i)	◎	「電子情報基礎演習」(40%)と「情報処理システム開発」(50%)、「卒業論文」(5%)において、この目標に該当する評価をすべて満たすことで、チームで相互評価と相互支援を行い、計画的に目標を達成する能力を習得していることを確認する。